

- 問1 関東地方の群馬県や栃木県などの内陸部では、自動車工業や機械工業といった「内陸型工業」が大きく発展しています。このように、内陸部において工業が発達した背景にある、交通網の整備に関する理由として最も適切なものはどれですか。 (2021年 奈良県公立入試 類似)
1. 鉄道の貨物専用線が各工場に引き込まれ、重量のある原材料を一度に大量に輸送することが可能になったため。
 2. 新幹線の駅が各地に設置されたことで、工場の従業員が都市部から短時間で通勤できるようになったため。
 3. 高速道路網の整備が進んだことで、生産した製品を消費地や港へ効率的に輸送できるようになったため。
 4. 大型の貨物船が沿岸できる掘込港が整備され、海外から輸入した原料を直接工場へ運び込めるようになったため。
- 問2 東京都とその周辺の埼玉県、千葉県、神奈川県における人口動態について述べた文章として、最も適切なものはどれですか。なお、統計上、東京都は昼間人口が夜間人口を約270万人上回っており、近隣三県はいずれも夜間人口が昼間人口を上回っています。 (2026年 新潟県公立入試 類似)
1. 周辺三県に住む多くの人々が、通勤や通学のために東京都へ移動しているため、東京都の昼間人口が多くなっている。
 2. 東京都に住む多くの人々が、工場や学校が集まる周辺三県へ日中に移動しているため、周辺三県の夜間人口が多くなっている。
 3. 東京都では夜間の観光客が非常に多いため、統計上の夜間人口が昼間人口よりも少なく算出されている。
 4. 周辺三県は、東京都に比べて出生率が非常に高いため、居住者を表す夜間人口が昼間人口を上回っている。
- 問3 横浜市、川崎市、さいたま市などは、東京都心部へ通勤・通学する人々が多く住む「ベッドタウン」としての性格を持っています。これらの都市の人口統計における一般的な傾向として、正しいものはどれですか。 (2021年 群馬県公立入試 類似)
1. 他地域からの通勤者が非常に多いため、昼間人口と夜間人口がほぼ一致する。
 2. 夜間に都心部へ移動する人が多いため、夜間人口が極端に少なくなる。
 3. 昼間人口よりも、そこに居住している夜間人口のほうが多い。
 4. 昼間人口が夜間人口を大幅に上回り、昼夜間人口比率が200%を超える。
- 問4 長野県、福島県、新潟県、群馬県の4県について、県名と県庁所在地の名称の関係をまとめた資料があります。この4県のうち、県名と県庁所在地の名称が異なっている県が一つだけあります。その県庁所在地の名称として正しいものはどれですか。 (2022年 千葉県公立入試 類似)
1. 新潟市
 2. 長野市
 3. 前橋市
 4. 福島市
- 問5 京浜工業地帯において、出版・印刷業や情報通信などの情報サービス機能が高度に集積している理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2017年 山口県公立入試 類似)
1. 原料となる木材やパルプの輸入拠点となる大規模な港湾が、この地域にのみ集中しているため
 2. 政治や経済の中核である東京に位置し、情報の発信地や巨大な消費地が隣接しているため
 3. 内陸部に広大な土地が確保されており、大規模な工場の建設が他の地域よりも容易であったため
 4. 労働賃金が他の工業地域に比べて非常に低く、労働集約的な産業の維持に適しているため
- 問6 関東地方の各都県にまたがる台地の自然環境と土壌について述べた文として、最も適切なものを選択してください。 (2026年 福島県公立入試 類似)
1. 九州地方南部に広がる、大規模な火砕流による火山灰が堆積してできたシラス台地が形成されている。
 2. 西日本に多く見られる、花こう岩が風化してできた「まさ土」と呼ばれる水はけの良い砂状の土が広がっている。
 3. 富士山や箱根山などの火山灰が堆積してできた、関東ロームと呼ばれる赤色の土層が台地を広く覆っている。
 4. 利根川などの河川が運んできた土砂が堆積してできた、水田に適した粘土質の土壌が台地の大部分を占めている。
- 問7 関東地方北部に位置し、群馬県の東側に隣接する内陸の県に関する記述です。この県は生乳の生産が非常に盛んであり、出荷される生乳の用途を統計で確認すると、その約99%が牛乳などの「飲用」として利用されています。この条件に当てはまる県名を答えなさい。 (2016年 秋田県公立入試 類似)
1. 群馬県
 2. 栃木県
 3. 福島県
 4. 茨城県
- 問8 千葉県八千代市周辺では、1980年代には畑が広がる農村地帯でしたが、1996年の東葉高速鉄道の開通を機に地域の様子が大きく変化しました。八千代中央駅などの新駅設置に伴い、この地域がたどった変化として最も適切なものはどれですか。 (2021年 東京都公立入試 類似)
1. 都心へのアクセスが向上したことで、農地から急速に住宅地へと変容した
 2. 駅周辺に大規模な商業施設のみが集中し、居住者が減少するドーナツ化現象が起きた
 3. 森林が伐採された後、機械化された広大な大規模農地へと再編された
 4. 大規模な工場が次々と建設され、京葉工業地域の一部として発展した
- 問9 かつて果樹園が広がっていた「鍋島農場」が、現在のように博物館や学校、多くの住宅が立ち並び「松濤」という地域へと姿を変えた背景にある、都市の機能が拡大し土地利用が変化する現象を何と呼びますか。 (2017年 佐賀県公立入試 類似)
1. 過疎化
 2. 工業化
 3. 情報化
 4. 都市化
- 問10 関東地方のある県について述べた次の文のうち、昼夜間人口比率の観点から説明される現象として最も適切なものはどれか。なお、この県は人口密度が非常に高いものの、昼夜間人口比率は全国で最も低い水準にあります。 (2020年 高知県公立入試 類似)
1. 県外の都心部へ通勤・通学する人が多いため、昼間の人口が夜間の常住人口よりも少なくなる。
 2. 大規模な工業地帯が形成されており、周辺の都県から多くの労働者が流入して昼間の人口が増加する。
 3. 県庁所在地を中心に商業施設が集中しているため、県内全域から買い物客が集まり昼夜間人口比率が100%を超える。
 4. 広大な農地が広がっており、居住人口そのものが少ないため、昼夜間人口比率の変動がほとんど見られない。
- 問11 地形図や地域調査から都市の歴史的変遷を読み取る際、行田市のような城下町を起源とし、近代に産業が発展した都市で見られる景観の特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2026年 東京都公立入試 類似)
1. 参勤交代の拠点となった宿場町の街並みが一直線に並び、街道沿いには蚕の飼育に適した高窓を持つ伝統的な民家が連続している。
 2. 防衛上の理由から「枡形」と呼ばれる直角に曲がる道路が配置され、近代の産業遺産である足袋蔵や鋸屋根の工場がその街並みに混在している。
 3. 洪水被害を防ぐための「輪中」と呼ばれる堤防に囲まれ、土地の有効活用のために基盤の目状に区画整理された住宅地が広がっている。
 4. 灌漑用の溜池を中心として放射状に道路が整備されており、古墳群の周囲に近代的な精密機械工場が密集する景観となっている。
- 問12 農業産出額が全国トップクラスであり、工業面では京葉工業地域を擁し、石油・石炭製品の製造品出荷額が県内で第1位となっている都道府県はどこですか。 (2016年 山形県公立入試 類似)
1. 鹿児島県
 2. 千葉県
 3. 愛知県
 4. 静岡県

答え合わせ・解説

問1	答え 3 高速道路網の整備が進んだことで、生産した製品を消費地や港へ効率的に輸送できるようになったため。	自動車工業や電子機器工業などの加工組立型工業は、原材料の重さよりも、完成した製品をいかに早く、計画的に市場へ届けかが重要視されます。群馬県太田市などの関東内陸部では、北関東自動車道や関越自動車道といった高速道路網の整備により、東京などの大消費地や輸出拠点となる港へのアクセスが飛躍的に向上しました。これにより、トラックを用いた「効率的」な「輸送」が可能となり、内陸部での工業発展に繋がりました。
問2	答え 1 周辺三県に住む多くの人々が、通勤や通学のために東京都へ移動しているため、東京都の昼間人口が多くなっている。	昼間人口は、常住人口（夜間人口）に、通勤・通学による流入人口を加え、流出人口を差し引くことで算出されます。東京都には都心部に多くのオフィスや学校が集中している一方、地価の高い都心を避けて周辺の埼玉県や千葉県などの「ベッドタウン」に住居を構える人が多いため、日中は周辺県から東京都へ大規模な人口移動が発生します。その結果、東京都の昼間人口が夜間人口を大きく上回る現象が起きています。
問3	答え 3 昼間人口よりも、そこに居住している夜間人口のほうが多い。	ベッドタウンと呼ばれる周辺都市では、朝の時間帯に都心のオフィスや学校へ向けて多くの住民が移動（流出）します。その結果、昼間にその都市に残っている人数は、夜間にそこで寝泊まりしている居住者数よりも少なくなります。つまり、昼夜間人口比率（夜間人口に対する昼間人口の割合）が100%を下回るのがこれらの都市の特徴です。
問4	答え 3 前橋市	日本の都道府県のうち、県名と県庁所在地の名称が一致しないケースは全国に複数存在します。提示された4県のうち、長野県は長野市、福島県は福島市、新潟県は新潟市がそれぞれ県庁所在地であり名称が一致しますが、群馬県については前橋市が県庁所在地となっており、名称が異なります。このような県名と都市名が異なる事例は、中学地理の基礎知識として頻出の事項です。
問5	答え 2 政治や経済の中核である東京に位置し、情報の発信地や巨大な消費地が隣接しているため	京浜工業地帯は、本社機能が集まる東京から横浜にかけてのエリアに形成されています。出版・印刷業は、最新の情報を取り扱う必要があるため、出版社や新聞社が集中する都市部に工場を構えることが有利に働きます。また、膨大な購買力を持つ消費者が密集しているため、輸送コストを抑えて製品を供給できるメリットもあります。
問6	答え 3 富士山や箱根山などの火山灰が堆積してできた、関東ロームと呼ばれる赤色の土層が台地を広く覆っている。	関東地方は、利根川などの流域に広がる「低地」と、その周囲に広がる「台地」に分けられます。この台地部分を覆っているのが「関東ローム」であり、火山灰が堆積してできた赤土であるという点が最大の特徴です。シラスは主に鹿児島県を中心とした九州南部、まさ土は西日本の山地・平野に多く見られる土壌であり、地域ごとの土壌の特色を捉えることが重要です。
問7	答え 2 栃木県	栃木県は関東地方北部に位置する内陸県で、生乳の生産量は北海道に次いで全国第2位を誇ります。特に、首都圏という巨大な消費地に近接しているという地理的条件を活かし、鮮度が重視される飲用牛乳としての出荷割合が非常に高いのが特徴です。群馬県は栃木県の西側に位置し、茨城県は東側、福島県は北側に隣接しています。
問8	答え 1 都心へのアクセスが向上したことで、農地から急速に住宅地へと変容した	東葉高速鉄道の開通と八千代中央駅の開業により、東京の大手町などの都心部へ乗り換えなしで移動できるようになり、利便性が飛躍的に高まりました。その結果、かつて畑や造成中であった土地には多くの住宅が建ち並び、都市近郊のベッドタウンとして急速に住宅地化が進みました。
問9	答え 4 都市化	都市の周辺部において、人口の増加や経済活動の拡大に伴い、農地や森林が住宅地や文教地区、商業地などへとつくり替えられる現象を都市化と呼びます。松涛の事例は、かつての広大な農場が都心部の発展に合わせて高級住宅地や美術館などが並び地域へと変容した、土地利用の変化の典型的な具体例として知られています。
問10	答え 1 県外の都心部へ通勤・通学する人が多いため、昼間の人口が夜間の常住人口よりも少なくなる。	昼夜間人口比率は「（昼間人口÷夜間人口）×100」で算出されます。埼玉県のように大都市（東京都）に隣接する地域では、就業や就学のために県外へ流出する人口が流入する人口を大幅に上回るため、数値が100%を下回ります。これは交通網の整備によって、都心への長距離通勤が可能になった現代日本の都市構造を反映しています。
問11	答え 2 防衛上の理由から「柵形」と呼ばれる直角に曲がる道路が配置され、近代の産業遺産である足袋蔵や鋸屋根の工場がその街並みに混在している。	行田市の中心部は、かつての忍城の城下町としての骨格を維持しており、敵の直進を防ぐために道路をクランク状に屈曲させた「柵形（ますがた）」が随所に見られます。ここに、近代の主要産業であった足袋製造に関連する「足袋蔵」や、特殊な屋根形状を持つ工場が組み合わさっているのが特徴です。他の選択肢にある放射状の道路や輪中などは、それぞれ田園都市構想や低湿地帯で見られる特徴であり、行田市の城下町・産業都市としての景観とは異なります。
問12	答え 2 千葉県	千葉県は、大消費地である東京に近い立地を活かした近郊農業が盛んで、農業産出額が全国的に見て非常に高い水準にあります。工業面では、東京湾沿岸の埋め立て地に形成された京葉工業地域を中心に、石油化学コンビナートや製鉄所が集積しており、特に石油・石炭製品の出荷額が大きな割合を占めているのが特徴です。